

## 迫力ある演奏を間近で体験

文化会館の運営を行う株式会社ケイミックスパブリックビジネスは12月22日、松浦署の警察官や事務員らで構成する「まつら音楽隊」とともに、みくりや双葉園（松浦敬乗園長）を訪れ「出張コンサート」を開催しました。

この取り組みは、地域の子もたちに楽器や音楽などに親しんでほしいと、同社が毎年企画、実施しています。

この日は、同音楽隊が「犬のおまわりさん」や「あわてんぼうのサンタクロース」など4曲を披露。

子どもたちは、「おもしろい」「音が大きい」と迫力ある楽器の演奏に釘付けでした。



## 人権について考える

市は、令和3年度松浦市人権啓発映画上映会を12月12日、文化会館で開催し、市民ら約70人が参加されました。

上映会に先立ち、第40回中学生人権作文コンクール長崎県平戸地区大会で入選した中学生による作文発表があり、志佐中学校2年の中原亜郁佳さんが「多様性と調和」と題し、「東京オリンピック・パラリンピックを通して人種や性の多様性など、自分との違いを認めあう大切さを感じました」と思いを語りました。

その後、障害者に対する世間の目や生活の過酷さを描いた映画「くちづけ」を上映。差別や誹謗中傷の問題など、身近な視点から人権について考える機会となりました。



▲作文を発表した中原さん

## 地元のお茶で風邪予防はバッチリ

JANAがさき西海茶業部会松浦地区部会（井手眞悟部会長）は12月27日、つきっこ保育園（田口松子園長）でうがい茶の贈呈式を行いました。

緑茶の主成分「カテキン」は殺菌作用を持ち、風邪やインフルエンザの予防に効果があると言われています。同会は、市内の小中学校や保育園などにうがい茶を配布し、市の特産品である松浦茶を使ったうがいの実践を呼び掛けています。

この日は、井手部会長らがお茶の効能などを説明し、園児たちがうがいを実践。そら・つき組の園児たちが「うがいをして風邪を引かない身体をつくりまします」と宣言しました。



## 交通安全と防犯の意識高める

松浦警察署、松浦地区交通安全協会の協力のもと「交通安全集会」が12月22日、御厨中学校で開催されました。

この集会は、冬休み期間中の交通事故などを未然に防ぐため毎年実施されています。この日は、交通安全宣言を全校生徒で唱和し、校内で募集した交通安全、防犯標語の表彰式を行いました。交通安全標語には松田莉々沙さんの「小さな手 気づいてあげて止まってね 小さな手でも大きな命」、防犯標語には吉原稔貴さんの「(薬物) 一粒で 終わりが始まる 抜け出せない」がそれぞれ最優秀賞を受賞しました。



# まちの話題

## 威勢のいい掛け声が響く

日本有数の水揚げ量を誇る松浦魚市場では1月6日、今年初めての取引となる初セリが行われました。

この日は、対馬・五島周辺で漁を終えた船から、例年より多い約200トンの魚が水揚げされました。午前5時に1番競りが開始されると、競り人と仲買人らの威勢のよい掛け声が場内に響き、アジやサバを中心に次々と競り落とされました。

その後開催された仕事始め式では、市場関係者が集まり、操業の安全や大漁、商売繁盛が祈願されました。



## 願いを込めた手作り門松を寄贈

公益社団法人松浦市シルバー人材センター（村田政司理事長）は12月28日、市民への感謝の気持ちを表したいと、市役所北側の入り口に一对の門松を寄贈しました。

同センター事業委員会によって手作りされた門松は高さ約1.7m。会員らが集めた竹や松、南天などの材料を使用し、この日の早朝から組み立て、装飾、設置が行われました。

堤英雄事業委員長は「新型コロナウイルスの収束を願い、心を込めて作りました」と話し、市長へ贈呈札を手渡しました。



## 今年一年の防火・防災を誓う

松浦市出初式が1月7日、文化会館において規模を縮小し開催されました。松浦市消防団（谷口哲男団長）の団員150人が参加し、今年一年の防火・防災への決意を新たにしました。

式典で谷口団長は「昨年は、豪雨による土砂災害などがあった。今年も市民の皆さんの安心安全な暮らしを守っていけるよう団務に当たりたい」と訓示を述べました。

また、コロナ禍の影響で中止となった県消防ポンプ操法大会に出場予定であった10人の団員へ、団長から記念のキャップが贈呈されました。



## 地面を叩き一年の健康を祈願

今年一年の家内安全や無病息災等を祈願する伝統行事「もぐら打ち」が市内各地で行われました。

星鹿地区では1月6日、地区の小中学生11人と保護者らが集まり、約50戸の家々をまわりました。新藁で作られた約80cmのもぐら打ち棒を持ち、「祝いましょう、祝いのもちをくれたなら、末も繁盛も世もよかろう」と囃し言葉を口ずさみながら元気よく地面を叩きました。

子どもたちは、囃し言葉の意味を地域の大人たちから学び、地元の伝統行事への関心を深めていました。

